

「Japanese : Step by Step 日本語ステップ」プログラムの開設

田中和美、桜木ともみ、根本愛子、助川愛

1. 開設経緯

ICUでは2014年スーパーグローバル大学創生支援(SGU)タイプBに採択されたことを受け、構想調書に掲げた語学教育プログラムの充実を図るための「大学院生及び短期交換留学生を対象としたより多様な」日本語コースの開設に取り組んだ。この背景には、本学の交換留学生(One Year Regular: OYR)のうち1年(3学期間)滞在ではなく、1学期間滞在の留学生が増加していること、ならびに大学院生の多様化が挙げられる。近年の傾向として、秋学期のみに加え春学期のみという短期の交換留学協定により、従来の日本語や日本関連専攻の学生だけでなく、日本語未習者や日本関連ではない専攻の学生が来日するようになった。このような学生は、日本語習得・日本語上達を目的とはしていないが、日本での体験をより豊かなものにするために、基礎的な日本語を学びたいという要望がある。一方本学では、ロータリー平和センター指定校、日本政府の人材育成奨学計画(JDSプログラム)、日本政府のアフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)に参加しており、多様な大学院生を受け入れている。大学院生からも同様に日本での生活に役立つ日本語の習得を望む声がある。

こうした状況を鑑み、日本語を集中的に、なおかつアカデミックに学ぶという従来の集中日本語プログラム(Intensive A, B, C、週15コマ)、日本語プログラム(JコースJ1~J6、週8コマ)とは別に、週4コマで、初級1~4のレベルを提供するプログラムを開設することにした。これは長年要望があった時間数の少ないプログラムで、大学院生およびOYR(1学期のみ及び3学期間)や研究生など、日本語学習に興味があるが、時間面や学習量の多さに履修を断念していた学生を対象としている。そのため、ワークロードが重すぎず、他コースや研究に支障がでないような配慮が重要である。この新たな日本語プログラム開設により、ICUの大学、大学院での学びがより充実したものとなれば、ICUの魅力はより広く発信され、さらに多くのOYRと大学院生がICUを選択する一助になるものと考えられる。

楽しく、ゆったりと学べることを念頭に、以下のようなプログラムを計画した。当初「ゆったり日本語」とコース名を考えていたが、相応の英語訳が見つからず「Japanese: Step by Step」「日本語ステップ」というプログラム名となり、2016年春学期に「Japanese: Step by Step 1、日本語ステップ1」が開講した。

以下、第2章ではコース開設にあたっての基本方針とその具体化のための方策について、第3章ではプログラム全体の概要、第4章では具体的な実践を報告、第5章で今後の課題を記す。

2. 基本方針とその具現化

最近の外国語教育、日本語教育の動向を参考にしつつ、新たな視点から既存のプログ

ラムとは異なるタイプのプログラムを目指している。そのために以下1)～4)の4点を基本方針とし、その具現化のための方策を矢印→で示した。

1) CEFR の理念や枠組み、JF スタンダードをもとにする。

従来の文法中心、文型積み上げ構造シラバスとは一線を引き、トピック（場面、機能）シラバスをベースとし、課題遂行を目的とするアプローチを用いる。

——→ CEFR 指標を用いてレベルを明記。学習目標は Can-do Statement を利用。

2) 学習者が実社会で即コミュニケーションをとることを前提とした授業形態、カリキュラムの構築。

どのように現実社会で言語が使用されているかを見据え、学習者に合った言語知識を抽出し、言語運用の実践を重ねるようなカリキュラムとする。同時に、円滑なコミュニケーションに必要な能力を身につける。授業時間内学習と授業時間外学習との連携を図り、スパイラルな学習を目指す。

——→ ① 授業時間外作業として、日本人と会話をする課題を Step 1 から課す。

② インタビューや調べ学習をもとにしたプロジェクトを課し、学期の終わりに発表する。

③ 言語知識を問う筆記試験のほかに、話す・聞く・読む・書くの統合的運用力をみる試験を実施する。

3) 読み書き、翻訳を含む技能の習得を図る。

話す・聞くの会話能力だけでなく、漢字の習得も含め、読み書き能力を積み重ねていく。また、日英両言語の仲介者として、英語と日本語との翻訳を通し、日本語及び日本文化の特色も学んでいく。

——→ ① 漢字をそれぞれのレベルで 50 字ほど導入。漢字ワークシートを作成。

② レベル 1 から作文を書く。

③ 授業時間外作業として英文和訳の課題を含むワークシートを作成。

4) 自己評価、自律学習の推奨

Can-do チェックリストを用いて自己評価を行い、自律学習の一助とする。ピア学習や授業時間外学習が継続できるように導く。

以上のように、4つの基本方針とその具現化の方策を検討したうえで、2016年春からの日本語ステッププログラム開講に向けて準備し、現在では Step 1～3 までのコースが開講されている。以下、その具体的な取り組みについて第3章と第4章で報告する。

3. プログラムの概要

コマ数、単位数： 週 4 コマ授業 + 1 コマ個別指導 3 単位

時間割： 火、木 1 + 2 限

2016 年～ 2017 年 開講及び開講予定（担当教員）

2016 春	2016 秋	2016 冬	2017 春
Step by Step 1 (田中&桜木)	Step by Step 1 (桜木)	Step by Step 2 (桜木&根本)	Step by Step 3 (桜木)
Step by Step 2 (根本)	Step by Step 2 (助川)	Step by Step 3 (助川)	Step by Step 4 (助川)
			Step by Step 1

1) 対象：1 年 OYR、1 学期 OYR、大学院生、研究生

注：本プログラムは語学卒業要件として認めないので、4 年及び転入本科生は対象外となる。

2) 目的：①日本での生活に役立つ、実用的な日本語能力の習得。

②日本留学中の大学生・大学院生として役立つスキルの習得。

3) 内容：①日常生活において日本語によるコミュニケーション言語活動ができるようになる。

②ディスコース能力、ストラテジー、社会言語能力などコミュニケーション言語能力を身につける。

③オンラインツールの利用など、自律学習ができるようになる。

4) 教材：「まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 りかい」国際交流基金 編著 三修社 2013

「まるごと 日本のことばと文化 初級 1 A2 りかい」国際交流基金 編著 三修社 2014

「まるごと 日本のことばと文化 初級 2 A2 りかい」国際交流基金 編著 三修社 2014

オンライン教材：<http://marugoto.org>

4. コースの実際

上記第 2 章で日本語ステッププログラムの基本方針とその具現化の方策について述べたが、ここではさらに具体的な実践例を報告する。レベルが違っていても基本的な考えは同じなのだが、コースによって特筆することがあれば、その旨加えた。

1) CEFR の理念や枠組み、JF スタンダードをもとにする。

各コースのシラバスは資料 1 の通りで、学習目標は Can-do Statement を利用し、CEFR 指標を用いてレベルを明記している。教科書のトピックと Can-do 記述から、各週の目標を定めスケジュールを決め、授業計画を組んだ。資料 2 を参照されたい。学生は上記第 2 章 4) の自律学習形成のため、教科書の巻末にある「にほんごチェッ

ク]を用いて、自己評価を行った。

2) 学習者が実社会で即コミュニケーションをとることを前提とした授業形態、カリキュラムの構築。

① 日本人と会話をする課題をレベル1から宿題として課す。

手順：各課の Can-do および基本的な会話の練習 → 会話文にフレーズなどを入れる練習 → 学生が日常生活で多く使用するであろう場面を考え、課題を設定 → 担当教師と練習（シュミレーション） → 日本人にインタビュー → 内容をまとめて書く → クラスで発表

木曜に課題を出し、火曜に提出させることで、インタビューをする時間に余裕があるようにした。また、インタビュー協力者に課題の意図を理解してもらうため、インタビューシートに「これはICUのクラス、「日本語ステップ」というコースの宿題です。日本語で質問しますので、日本語で答えてください。英語はできるだけ使わないでください。ご協力をよろしく願います。」との一文を入れておき、インタビュー前に見せるよう指示しておいた。

資料3で例として挙げた課題では、大学内の寮に住む相手では「大学に住んでいます」「寮から本館まで歩いていきます」で終わってしまうため、大学寮に住んでいない相手を指定した。また、インタビュー中にメモを取ることを考え、家のイラストとICUのロゴを入れ、その間を埋めることができるようにしておいた。この課題を通して、学習者が「行き方について質問する」こと、および、「行き方を説明する」ことを実際に行うことができた。結果としてインタビュー協力者の住む町についての話にもおよんでおり、第18課「ゆうめいなおてらです」での町の説明へつながったり、東京都内の公共交通機関についても知識を得る機会となった。さらに、友人が「そんなに遠くから通学しているのか」という驚きから、日本人大学生の日常生活についても話したという学習者もいた。したがって、Can-do項目が増えるのみならず、学習者が知識や興味を広めたり、インタビュー協力者との友人関係を築いたりするきっかけとなっていると言える。

Step 1ではパーティーやイベントを企画してポスターを作り、クラスメイトに説明（発表）し、招待する、という活動を行った。日本人学生に数名インタビューして共通の興味や好みに合う企画を立てること、時間や場所などの情報を分かりやすく文字や口頭で表現することなど、Step 1で学習したことが幅広く求められる課題となっている。

Step 2では、「わたしの大切な人」について発表することをプロジェクトとした。内容は、家族・友人の中から1人を選び、写真を見せながらその人について発表する show & tell とした。人物について説明する中で、写真を撮影した日や場所についても話すこととなり、Step 2での Can-do 項目のまとめとなった。

発表3分、質疑応答2分で1人5分とし、大学の授業での発表を想定し、発表開始から質疑応答終了まで発表者自身が行うこととした。

Step 3では、調べ学習と日本人へのインタビューを合わせたものをプロジェクトとした。第10課で外国文化を扱うので、興味のある日本の伝統的な文化を取り上げて調べ、

日本人がどのように思っているかをインタビューし、発表する課題である。日本文化になじみのない留学生などに説明し、勧誘する目的という設定で行う。

- ③ 言語知識を問う筆記試験のほかには話す・聞く・読む・書くの統合的運用力をみる試験を実施。

手順：課題を読んで、準備する（10分）→日本人（教師）にインタビューして、情報を集めたり、合意形成をしたりする（10分）→課題に沿って内容をまとめて書く（30分）

Step 3 の例として、「外国から初めて日本に遊びに来た友人に東京を案内する」という設定（遊びに来た友人役を教師が行う）で試験を行った。学生にまず課題が書いてある試験問題を渡し、10分で内容の確認と会話試験の準備をさせる。遂行する課題は、友人が東京でやりたいことや、もう既に行った場所などを聞き、それに沿っておすすめの場所を選び、週末に一緒に出かける約束をする、というものである。東京の観光地が載っている地図も与え、地図の中から一緒に行く場所を選ばせた。成績はインタビューでの話し方と作文に対してそれぞれ正確さや課題の達成度などをチェックし、評価する。

この試験形態は、宿題で課せられている日本人とのインタビューの延長線上にあり、実際の言語運用能力を統合的・実践的に測ることができると思う。例えば、質問して情報を得るためには会話でイニシアチブをとる必要があり、会話をうまく進めるためのコミュニケーション力や、話しながら情報を得たりその情報を確認する能力を求められる。学生は、このような課題を通して、トピックに即した課題遂行ができたという達成感を得て、結果として運用面への自信へとつながっているようだ。

しかしながら、現在の方式で行うにはかなりの時間と手間が必要である。例えば、教室・試験監督の追加、学生移動の管理、インタビューで答える内容を学生の人数分準備しておく必要があること、採点の際にインタビューで答えた内容とのずれがないかを学生ごとに確認する必要があることなどが、負担となるかもしれない。人数が多い場合はこの方式で中間テストと期末試験を実施するのは現実的には難しくなる可能性がある。

3) 読み書き、翻訳を含む技能の習得を図る。

Step1 には、日本語の文字を初めて勉強した学生も、それまでの文字学習で苦手意識を持っている学生もいたが、ほとんどの学生がそれほど無理なく文字と読み書きの能力を伸ばすことができた。ひらがな・カタカナの導入には通常コースよりも時間をかけられること、使用教材の中でローマ字表記も併用されていたことから、文字学習が苦手な学習者でも授業内容についてこられなくなることがなかったと考える。

読解は、教科書の読解ページ、作文シートのモデル文などを利用した。基本的に「まると」と読解文は情報を見つけること（速読）であることから、必要に応じて読解の練習問題を追加した。Step 3 では関連した内容の読み物を補足的に作成し、長さのあるものも読ませるようにしている。

- ① 漢字をそれぞれのレベルで 50 字ほど導入。漢字ワークシートを作成。

漢字リストと、ワークシートの一例を資料 4 とした。漢字は、教科書で提示される漢字を入れた上、語彙の中から、使用頻度が高い語彙の漢字を加えた。

② Step 1 の第 3 課から作文を書く。

教科書のオンライン教材に作文シートがあり、ダウンロードして使用した。各課の作文例がモデルとしてあり、字をなぞって練習した後、自分のことについて書くようになっている。学生達は、自ら日本語を使用して自分のことを書くことに達成感を得ていた。授業時間内で書き終わらない場合は、宿題とした。Step3 では、教科書のトピックについて各課作文を書かせた。トピックによっては写真なども用意させ、クラスで発表させる（出身の町、おすすめの場所、おすすめの食べ物など）ことも行った。さらに①で述べたように、宿題であるインタビューの内容を日本語でまとめさせる活動は毎週行われていた。

③ 授業時間外作業として英文和訳の課題を含むワークシートを作成。

毎週の宿題のワークシートに英文和訳の設問を取り入れた。また、中間テスト・期末試験にも翻訳問題を課した。基本的に会話文の和訳であり、英文を見ることで場面や機能が明確になり、またその場面において自分が言えるはずの表現や相手の発言に対応するために便利なフレーズなどを確認（復習）することを目的とした。ある程度まとまった長さのものを扱うようにし、会話のやり取りの中で日本語がどう使われているか、単に直訳するのではなく、与えられた状況の中で自然な言い回しが出来るようになることを目標としている。英文の文章や表現のままでも（より簡単な言い方になっても）、自分が言える日本語で会話を作る練習になったと思う。

一方で、日本語文を英訳することも行ったが、その英訳の正確さや適切さをどこまで許容するか、教師間で確認を取りにくいという状況もあった。特にアジア圏からの大学院生に日本語の授業での英文和訳が適当かどうか、今後検討が必要である。

5. 今後の課題

日本語ステッププログラムは、開設されて3学期目を迎えている。まだ、すべてのコースを開講してはならず、学習者数も少なく、成果を検証するには至っていない。現時点で挙がっている早急に取り組んでいかなければならない課題は、次の2点である。

1) 日本語ステッププログラムと日本語プログラム (J1～J6) の関係。

この3学期にわたる Step1～3 の履修者は、日本語学習歴ゼロの全くの入門者、および、プレースメントテストの結果 J1 と J2 コースのはざまに入る学習者である。また、日本語学習歴があっても、言語知識や運用力が定着していないため、日本語ステッププログラムを希望したり、こちらから勧めたりした学生もいる。

日本語プログラムは J1 から J6 までのコースがあり、個別指導の時間を除くと週7コマ、一方日本語ステッププログラムの各コースは週4コマという授業時間数で、なおかつ日本語ステップコースでは文字学習や実践的練習などに時間を割いていることを考えると、日本語プログラムのコースは日本語ステップコースの約2倍の進捗となると言えるだろう。もっとも使用教科書が異なり、教育のアプローチも異なるので、単純な比較は難しい。実際に時間割の関係で、J1 修了後 Step 3 の履修を認めた大学院生の例があるが、大きな問題はなく授業に臨んでいる。今後、日本語ステッププログラムと日本語プログラムの乗り入れをどうするのか、議論を進めていく必要がある。

2) 学習効果、自律学習の推進のための教材開発、授業の組み立て。

自律的に学習を維持できる工夫として、日本人にインタビューしてその内容をまとめるなどの実践的な課題や、豊富な Web 教材を使用して自習を促すなどの支援を日本語ステッププログラム全体で行っているが、実際には授業時間外の課題の量を増やすことはゆったりと学ぶという本来のニーズに反する。「ゆっくりと学習できること」と「効果的に学習効果を上げること」をいかに確保していくかが課題であるように思う。

教師が担う役割、学習者が授業時間外で取り組むことなど、包括的な教育を考えた上でのカリキュラム作り、ICT を取り入れた教材開発、反転授業への取り組みなど、多くの可能性がある。教員研修をも含め、あらたな語学教育を模索する必要がある。

従来のコースとは異なる考え方、やり方で学習者のニーズに応えたいという思いで始まった日本語ステッププログラムである。様々な状況の中で日本語を学習したいと思っている多様な学生たちに、日本語習得の場を提供したいと思う。課題は多々あろうが、担当教員は学習者と向かい合って試行錯誤の中で、よりよいプログラムを目指している。

資料1 シラバス

Course description

This program is designed to develop real-life communication competence in Japanese and it provides practical skills including reading and writing to help students fulfill daily life in Japan. It has 4 levels at elementary stage.

Learning Goals

Japanese: Step by Step 1 (CEFR A1) = Starter Course 1

By the end of this course, students will be able to interact in a simple way provided the other person talks slowly and clearly and is prepared to help. Students will be able to

- read and write Japanese scripts *Hiragana*, *Katakana* and about 50 *Kanji*
- exchange greetings and respond to basic questions and classroom instructions
- talk about such familiar things as family, friends, home, favorite food, schedule, etc.

Japanese: Step by Step 2 (CEFR A1) = Starter Course 2

By the end of this course, students will be able to understand and use familiar everyday expressions and very basic phrases aimed at the satisfaction of needs of a concrete type. Students will be able to

- read and write about 100 *Kanji*
- read and write a short blog/E-mail about days off/travel/everyday life
- interact at a shop / restaurant / office

Japanese: Step by Step 3 (CEFR A2)

By the end of this course, students will be able to communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters. Students will be able to

- read and write about 150 *Kanji*
- read and write in simple terms aspects of one's background and immediate environment
- ask, offer, accept help to/from someone with a problem

Japanese: Step by Step 4 (CEFR A2)

By the end of this course, students will be able to understand and use sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance. Students will be able to

- read and write about 200 *Kanji*
- read and write messages, questionnaires, forms
- make a simple presentation about the results of a survey

資料 2 学習目標とスケジュール

資料 2-1 Step by Step 1 スケジュールと内容

2016 春学期 実施例

教科書：「まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 りかい」国際交流基金編著 三修社 2013

	トピック	目標	課	Can-do チェックリスト <かつどう>編から	文型	文字	宿題
Week 1	自分	①あいさつができる ②自己紹介ができる ③日本語の音が認識できる ④教室用語が少し理解できる	1, 3	1.Exchange greetings 5.Give a simple self-introduction 2.Recognise Japanese characters 3.Use basic classroom expressions	～です	ひらがな	Worksheet 1 hiragana
Week 2	自分 家族	①初めて会った人と会話を始めて、終わることができる ②自己紹介、他人紹介 ③ひらがなが読める ④ひらがなで書ける	2, 3, 4	7.talk briefly about your family/friends 8.tell someone about your family/friends, using a photo	～は～です ～ですか ～じゃないです も と	ひらがな 特殊音 カタカナ	Worksheet 2 hiragana
Week 3	家族 友だち 食べ物	①家族、友達のことを説明できる ②好きな食べ物 / 飲み物について話すことができる ③カタカナが読める ④カタカナが書ける ⑤自分の名前と国が書ける	4, 5	9.Talk about your favorite food 4.Write your name and country in Japanese	～ができます ～がすぎです ～がすぎじゃないです	カタカナ 漢字について 漢数字 (一～十)	Worksheet 3 katakana
Goldenweek							
Week 4	食べ物	①何を食べるか話すことができる ②どこで食べるか言うことができる ③簡単な感想が言える	5, 6	11.Talk about your breakfast 12.Say what your favorite dish is 13.Talk about where to go for lunch	V-ます i-adj, na-adj	大学 先生 日本人 中国	Worksheet 4 Kanji 1
Week 5	住居	①家 / 部屋に何があるか説明できる	7	中間テスト 17.Say what you have in your home/room	～があります / います	食、飲、魚、肉、水、茶、円、何	Worksheet 5 Kanji 2
Week 6	住居	①住んでいる家について話せる ②友達を家に招待するメールが書ける	7, 8	16.Say what kind of home you live in 18.Write an E-mail inviting someone to your home 19.Ask/say where to put things in the room	i-adj, ～が number あります ～に～が あります	女、男、子、口、目、山、川、田	Worksheet 6 Kanji 3
Week 7	スケジュール	①時間が言える ②一日のことが言える	9	23.Say the time you do something 24.Talk about your daily routine 25.Talk about your schedule of the week	時間に、いつ 動詞 曜日 から～まで	小、新、古、高、安、上、下、右、左	Worksheet 7 Kanji 4
Week 8	スケジュール	①一週間のスケジュールが言える ②スケジュールが読める ③予定を聞くことができる	10 11	26.Talk about when to have an event 28.Talk about your hobbies	～いいです; だめです どんな～がすぎですか ～ができる; 動詞	月、火、木、金、土、時、分、半、年	Worksheet 8 Kanji 5
Week 9	休み	①趣味について話せる ②イベントに誘うことができる ③誘いにこたえることができる	11 12	29.Talk about what you do on your days off 30.Recognize information on posters, etc for events 31.Say whether or not you will attend an event 32.Talk about whether or not you can go out with your friend	頻度のことば ～に～がある (出来事) V-ませんか、V-ましょう	見、言、読、話、聞、書、休、行	Kanji 6

資料 2-2 Step by Step 2 スケジュールと内容

2016 春学期 実施例

教科書：「まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 りかい」国際交流基金編著 三修社 2013

「まるごと 日本のことばと文化 初級1 A2 りかい」国際交流基金 編著 三修社 2014

	トピック	目標	課	Can-do チェックリスト <かつどう>編から	文型	文字	宿題
Week 1	復習				復習 (A1 Topic 2-4)	Step1 Kanji review	Review Worksheet 1
Week 2	復習 町	①目的地までどうやって行くか 話すことができる	13	35.Say how to get to a particular destination	復習 (Topic 5,6) ～から～まで～で行き ます ～で～のります ～で～をります	車、電、駅 歩く、北、南、東、 西	Review Worksheet 2 Kanji1
Week 3	町	①タクシーに乗って行き先を 告げることが出来る	13	34.Show a taxi driver a note and say your destination	～は～がいいです ～から		Worksheet
Week 4	町 買い物	①自分の住む町を描写できる ②建物や人の場所を説明で きる ③欲しい物について話すこと ができる	14, 15	36.Say how to get to a destination, using a map 37.Say where you are now over the phone 39.Talk about what you want to buy	い形容詞 / な形容詞 ～に～があります 位置詞 ～は～にあります ～は～にいます ～が美味しいです	所、場、町、校、 店、屋、前、後	Worksheet Kanji2
Week 5	買い物	①どこで買うか言うことができ る ②もらったもの / あげたものつ いて話せる ③値段が読める / 聞ける ④店で買い物ができる	15, 16	40.Talk about where to shop for something you want 42.Read prices 43.Do some shopping	～は～に～をあげます ～は～に～をもらいま す 動詞の過去形 ～はいくらですか ～をください	百、千、万、買、 花、白、黒、赤、 青	Worksheet Kanji 3
Week 6	休み	①休日にしたことについて話 せる / 感想が言える	17	中間テスト 45.Say what you did on your days off 46.Say briefly what you thought about your days off	動詞の過去形 い / な形容詞 過去 形 どこにも / なにも	朝、昼、夜、午、 今、毎、週、友、 会	Worksheet Kanji 4
Week 7	休み	①最近した旅行について話 せる ②次に行きたいところにつ いて話せる	17, 18	49.Say what you did on your travels 50.Say where you want to go next time	それから でも そして ～たいです		Worksheet
Week 8	家族 / 趣味	①家族や自分がどこに住んで いるか・何をしているか簡 単に話せる ②通勤 / 通学の方法につ いて話せる	A2-1 A2-2	1.Talk briefly about where you/ your family live and what you/ they do	～ています (習慣結 果の継続) 助詞 N に 助詞 N で (手段 / 場所)	名、社、父、母、 兄、弟、姉、妹、 弟	Project Kanji 5
Week 9	趣味 季節	①趣味について話せる ②季節の変化について簡単 に話せる ③好きな天気とその理由につ いて話せる	A2-2 A2-3	3.Talk about your hobbies 6.Talk about the change of seasons 7.Say what season you like and why	～ること N のとき / イ A-いとき / ナ A-なとき N に / イ A-く / ナ A- -になる ～のが好きです ～から (理由)	外、旅、音、楽、 好、英、語	A-1/2 Worksheet Kanji 6
Week 10	季節 / 天気	①天気について簡単な会話 ができる	A2-3 A2-4	8.Greet people by talking about the weather 9.Start a conversation over the phone by talking about the weather	動詞過去形 形容詞過去形 ～ています (現在進 行形)		

資料 2-3 Step by Step 3 スケジュールと内容

2016 冬学期 実施例

教科書：「まるごと 日本のことばと文化 初級 1 A2 りかい」国際交流基金 編著 三修社 2014

	トピック	目標	課	Can-do チェックリスト <かつどう>編から	文型	文字	宿題
Week 1	復習	①自分紹介ができる。 ②家族がどこに住んで、何を しているか話すことができ る。 ③趣味の話ができる		1.Talk about yourself and family, including where they live and what they do. 3.Talk about your hobbies	復習 V-te が好き V-る+こと、V-たい	復習	Worksheet 1
Week 2	私の町	①町の紹介ができる	5	10.11.Using a map, tell about a your place of recommendation / place someone is interested	復習 Adj past Adj くて、NaAdj で Adj/NaAdj + けど	復習	Worksheet 2
Week 3		①行き方の説明ができる ②二つ以上の特徴で説明で きる	6	12.Tell how to get to a place 14.Describe features of buildings	V-てください、V て V て Adj/NaAdj+ て、N じゃなくて	少、多、広、元 気、来、帰、(東) 京	Worksheet 3 Kanji 1
冬休み							
Week 4	出 かけ る	①待ち合わせを決めることが できる ②誘う、誘われることができる	7, 8	15.Arrange the time and place you will meet 17.Apologize for being late and give a reason 18.Invite a friend to visit a place/ respond to an invitation	N でもいいですか N で、V て (理由) もう、まだ N に V に行く N のまえ、あと	止、待、出、入、乗、 (時) 間、仕事	Worksheet 4 Kanji 2
Week 5	外国と 外国文 化	①言葉の特徴を説明できる ②自分のしたいことを述べるこ とができる	(8,) 9	21.Talk about languages you have studied 23.Ask someone for help to understand	～は～が～です V-るのが V-てくださいませんか V-方	春、夏、秋、冬、 勉強、道、通	Worksheet 5 Kanji 3
Week 6		①文化について話すことができ る ②困っている人に助けを申し 出る・申し出を受けること ができる	10	中間テスト 24.Talk about the culture of another country 25.Offer help / accept help	V-たい、たくない 週・年・月に～回 V-てみます、V-ましょ うか	天(気)、雨、雪、 風、晴、文化、 回	Worksheet 6 Kanji 4
Week 7	外で食 べる	①もって行くものについて話 すことができる ②希望を聞いたり、言ったり できる	11	27.28.Discuss what to take, who is bringing what for a picnic 29.Ask,say your preference	V-て行く・くる なん / いつ / どこ / + でも N と N とどちらが	作、持、願、物、 海、手、足	Worksheet 7 Kanji 5
Week 8		①よく知らないことについてコ メントできる ②勧める、勧めにこたえること ができる	12	30.Talk about food you don't know 32.Offer a dish, respond to an offer	Adj/NaAdj + そうで す、そうな Adj/NaAdj + なくて、 じゃなくて	料理、味、色、(大 学) 院、私	Worksheet 8 Kanji 6
Week 9	出張	①経験を述べる事ができる ②出迎えたり、見送ったりで きる ③許可を得ることができる	13, 14	* Talk about experience 35.Check and see if it is OK 37.Introduce friends to a visitor 38.Ask for permission	V た+ことがある Adj/NaAdj/V+ すぎ る ～が、～ V- てもいいです	使、借、送、空 港、自(分)	Worksheet 9 Kanji 7
Week 10	健康	①体の具合を聞いたり、言っ たりすることができる ②体にいいことを勧めることが できる	15	41.Ask, say how one is feeling 43.Suggest something good for the health	V-る+まえに V-るといい V-ないてください		

資料3 日本人インタビューの課題 例

Step 2 Lesson 13 (縮小してあります)

Let's find someone to talk with in Japanese!

★ これはICUのクラス、日本語ステップ2の宿題です。
日本語で質問しますので、日本語で答えてください。
英語はできるだけ使わないでください。ご協力をよろしくお願いします。

Ask someone who does NOT live in campus dormitory how he/she comes to ICU.

Interview: Date _____ Place _____
Interviewee's name _____


→

→


(memo)

★ Describe the interviewee and write how he/she comes to ICU in Japanese

資料4-1 漢字練習シート Step 1 Lesson5 (部分)

Write the readings of Kanji in Hiragana in the box, choose an appropriate word to complete the sentences and write a-f on ____.

a 日本	d 国
b 日本人	e 3人
c 中国	f フランス人

1) A: わたしは、_____です。お_____は？

B: _____です。

2) ホセさんは_____です。かぞくは_____です。

Let's write.

にほん 日本	日	本	日	本					
にほんじん 日本人	日	本	人	日	本	人			
ちゅうごく 中国	中	国	中	国					
日	本	ご	の	本	で	す	。		

資料 4-2 漢字リスト

Step by Step 1 Kana and Kanji

Kanji Chapter	Corresponding lessons		
	入門 A1-lessons 1&3	ひらがな	
	入門 A1-lessons 2&4	ひらがな / カタカナ	
	入門 A1-lessons 4&5	カタカナ	
Step1-1	入門 A1-lessons 5&6	大、学、先、生、日、本、人、中、国	9
Step1-2	入門 A1-lesson 7	魚、肉、水、茶、食、飲、何、円	8
Step1-3	入門 A1-lessons 7&8	女、男、子、口、目、山、川、田	8
Step1-4	入門 A1-lesson 9	小、新、古、高、安、上、下、右、左	9
Step1-5	入門 A1-lesson 10	月、火、木、金、土、時、分、半、年	9
Step1-6	入門 A1-lesson 11	見、言、読、話、聞、書、休、行	8
			51
Step1-extra		一、二、三、四、五、六、七、八、九、十	10

Step by Step 2 Kanji List

Kanji Chapter	Corresponding lessons		
Step2-1	入門 A1-lesson 13	車、電、駅、歩、北、南、東、西	8
Step2-2	入門 A1-lesson 14	所、場、町、校、店、屋、前、後	8
Step2-3	入門 A1-lessons 15&16	百、千、万、買、花、白、黒、赤、青	9
Step2-4	入門 A1-lessons 17&18	朝、昼、夜、午、今、毎、週、友、会	9
Step2-5	初級 1 A2-lesson 1	名、社、父、母、兄、弟、姉、妹	9
Step2-6	初級 1 A2-lesson 2	旅、楽、音、好、外、語、英	7
			50

Step by Step 3 Kanji List

Kanji Chapter	Corresponding lessons		
Step 3-1	初級 1 A2-lesson 6	少、多、広、元気、来、帰、(東)京	8
Step 3-2	初級 1 A2-lesson 7 & 8	止、待、出、入、乗、(時)間、仕事	8
Step 3-3	初級 1 A2-lesson 9	春、夏、秋、冬、勉強、道、通	8
Step 3-4	初級 1 A2-lesson 10	天(気)、雨、雪、風、晴、文化、回	8
Step 3-5	初級 1 A2-lesson 11	作、持、願、物、海、手、足	7
Step 3-6	初級 1 A2-lesson 12	料理、味、色、(大学)院、私	6
Step 3-7	初級 1 A2-lesson 13 & 14	使、借、送、空港、自(分)	6
			51

